

韓国語の二重使役構文の統語的・意味的特徴

—KAIST コーパスの調査に基づいて—

石原庸兆 パルデシ・プラシャント 堀江薫

東北大学大学院国際文化研究科

ishihara@insc.tohoku.ac.jp prashant@lbc21.jp khorie@intcul.tohoku.ac.jp

1. はじめに

ある出来事が原因となり別の出来事が結果として生じる「使役的状况 (Causative Situation)」(Comrie 1989)を言語化する手段として、多くの言語では日本語の $-(s)ase-$ 、英語の *make, let, have*、フランス語の *faire* のような専用の「使役動詞」を用いて、「Y が X に V させる」という意味を表す「使役構文」が存在する。使役構文の表すこのようなプロトタイプ的使役状況にさらに使役者が加わった、「Z が Y を通じて X に V させる」という使役状況の連鎖を表す構文を「二重使役構文」という。本研究は、韓国語の二重使役構文について、コーパス調査に基づいて、その統語的・意味的特徴を考察する。これまで十分に記述・理論的考察のなかった韓国語の二重使役構文の統語的・意味的特徴を明らかにすることを目的とする。

2. 韓国語の使役形式

二重使役構文そのものに関する研究は、個別語学、言語類型論、理論言語学など、いずれにおいても十分とはいえない。本節では、韓国語の二重使役構文を考察するための前提として、通常の使役形式に関する基本的事実を確認する。

韓国語の使役形式には *I* 系接尾辞である $-i-$ 、

$-hi-$ 、 $-li-$ 、 $-ki-$ と分析的方法である $-key ha-$ 形がある。本研究では前者を「*I* 系接尾辞」、後者を「 $-key ha-$ 形」と呼ぶ。

先行研究において、両者の統語的・意味的な共通点・相違点について、以下のように指摘されている (cf. 菅野 1982, Sohn 1999, Shibatani and Chung 2001)。

(1) *I* 系接尾辞

$-i-$ 、 $-hi-$ 、 $-li-$ 、 $-ki-$ があり、語彙的にいずれが現れるか決まっている。限定された動詞、にしか連結できない。動詞によっては、受動を表すこともある。意味的により直接的な使役を表す傾向が強い。

(2) $-key ha-$ 形

基本的に全ての動詞に連結できる。一義的に使役の意味しか表さない。意味的により間接的な使役を表す傾向が強い。

また、通時的に、*I* 系接尾辞は、本来規則的・生産的な文法手段であったものが、時代が下るにつれて語彙化が進んで限られた動詞としか連結できなくなり(鷲尾 2000)、一方で $-key ha-$ 形は目的を示すマーカーであったものが一般的・無標の使役形式として発達したことが指摘されている (Song 2002)。

二重使役構文に関する数少ない類型論的研

究に Yeon (2003)がある。Yeon は、韓国語の二重使役構文は、次のように *I* 系接尾辞と *-key ha-*形の結合によるものであるとした。

- (3) John-*I* Tom-eykey Mary-lul
 人名-主格 人名-与格 人名-对格
 cwuk-*i-key ha-*ess-ta
 死ぬ-使役-使役-過去-終結
 「ジョンがトムにメアリを死なせさせ(=殺させ)た。」
 (Yeon 2003: 80)

3. コーパスにおける二重使役構文の実例

本研究では、ウェブ上で利用できる韓国語コーパスである KAIST (韓国科学技術院) コーパス (300 メガバイト) を用い、一つの動詞に *I* 系接尾辞と *-key ha-*形が同時に起こっている例を収集した。

その結果見出された、もっとも典型的な二重使役構文は例文(4)のようなものである。

- (4) yutan-*i* motun nongpu-lo hayekwum
 人名-主格 全ての 農夫-与格
 so-eykey mul-ul
 牛-与格 水-对格
 mek-*i-key ha-*n-kes
 飲む-使役-使役-連体過去-こと
 「ユダンが全ての農夫に牛に水を飲ませさせたこと」

この文は、使役者、被使役者が明示され、この場合の *I* 系接尾辞である *-i* は使役しか表さず、文脈的に二重使役であることが明確である。

しかし、また同時に明確に二重使役とは判断できない例も見出された。これらは、*I* 系接

尾辞が連結した場合が受動の意味を表す場合などであり、「受動+使役」の意味を表す場合である。

- (5) naynglaynggha-n phyoceng-un
 冷やかな 表情-主題
 kunye-lul twuk alamtawe
 彼女-对格 さらに 美しく
 po-*i-key hay-*ss-ta
 見る-使役/受動-使役-過去-終結
 「冷やかな表情は彼女をさらに美しく見せ/られさせた。」

以上から、韓国語の二重使役構文の生起がコーパスにおいて実際に確認できた。次節においては、二重使役構文の具体的な統語的・意味的特徴を考察する。

4. 考察

4.1 統語的特徴

前節のコーパス調査によって、韓国語の二重使役構文は、*I* 系接尾辞と *-key ha-*形という二つの使役形式によって形成され、また実際に使用されていることが確認された。

二重使役構文内の二つの使役形式の生起順序が [*I* 系接尾辞+*-key ha-*形] であってその逆の [**-key ha-*形+*I* 系接尾辞] でないことは、二つの使役形式の性質を考える上で重要である。この生起順序は、*I* 系接尾辞が語彙化し、*-key ha-*形が一般の使役形式となっていることを端的に示すものである。

また、*I* 系接尾辞がどの場合に使役を表すか、受動を表すか、また *-i-*, *-hi-*, *-li-*, *-ki-* のうちいずれが現れるかについては、その規則性が見出しがたく、これも語彙化の根拠の一つとなっている。

I系接尾辞の語彙化のために、二重使役構文を形成できる韓国語の動詞の数は非常に限られてきている。つまり、例えば *ka-ta*(行く)や *manna-ta*(会う)などの動詞は、I系接尾辞を連結することができず、そのために二重使役構文を形成することもできないというように、韓国語の二重使役構文の規則性・生産性は非常に限定的である。

4.2 意味的特徴

続いて本節では、韓国語の二重使役構文の意味的特徴について考察する。

前節のコーパス調査の結果、最も多く二重使役形の現れた動詞を表1として示す。また、文法的に可能であり、一般の使役形式で生起しながら、その生起が確認できなかった二重使役形動詞を表2として示す。

表1.最も多くコーパスに現れた二重使役形

tol-li-key ha-ta	「回らせさせる」	109
cwuk-i-key ha-ta	「死なせさせ (= 殺させ)る」	53
olm-ki-key ha-ta	「移らせさせる」	34
pwuth-i-key ha-ta	「着けさせる」	34
cwul-i-key ha-ta	「減らせさせる」	13

表2.コーパスに現れなかった二重使役形

kalaanc-hi-key ha-ta	「沈ませせる」
kwulm-ki-key ha-ta	「飢えさせさせる」
wus-ki-key ha-ta	「笑わせさせる」
nwup-hi-key ha-ta	「寝させさせる」
koyop-hi-key ha-ta	「苦しませさせる」
muk-ki-key ha-ta	「泊ませさせる」
pak-i-key ha-ta	「打たせさせる」
sin-ki-key ha-ta	「履かせさせる」

これらの動詞の生起頻度数の差は、どのような認知・機能的要因によるものだろうか。本研究では、ある動詞が二重使役形を取りうるか否かは、その動詞が表す動作の「操作可能性(manipulability)」、すなわちその動作を相手に物理的・直接的に行使させうる可能性と相関していると主張する。

つまり、表1に示した動詞は、「回らせさせる」「移らせさせる」などの無生物を対象とする二重使役形や、「死なせさせ (= 殺させ)る」などの、対象が有生物であってもモノ扱いしている動詞はその表す動作がいずれも操作可能性が高く、実際に相手に行使させやすいため、多くコーパスにも現れたと考えられる。これに対して、表2に示した動詞のうち、「笑わせさせる」「寝させさせる」などのように当該動詞の表す動作が、直接的・物理的に相手に行使させ難い、すなわち操作可能性が低いものは、文法的に可能であっても、コーパスには現れなかったと考えられる。

また表2の中で、「(釘を)打たせさせる」「(靴を)履かせさせる」などイディオムのな用法に限られている動詞も、使用される場面が限られているために生起が確認できなかったものと考えられる。

これらの動詞ごとの二重使役構文の統語的・意味的性質を Shibatani and Pardeshi (2002) の意味的マップを用いて図1のようにまとめることができる。

図1は、動詞ごとの二重使役形の生起頻度と被使役者のコントロールの程度が相関関係にあることを示している。つまり、*cwuk-i-key ha-ta* から *mek-i-key ha-ta*, *anc-hi-key ha-ta* と右側に行くにしたがって、操作可能性が低くなり、コーパスにおける生起頻度も低くなっている。またこれに反比例して、被使役者のコ

ントロールの度合いが高くなっている。

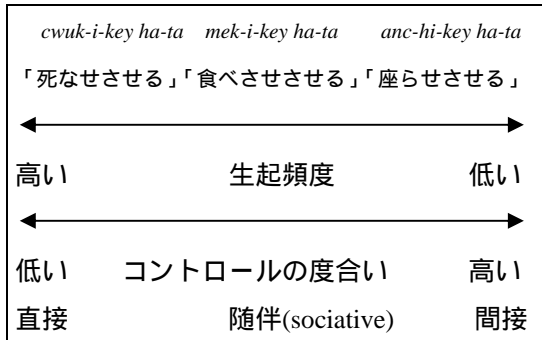


図 1. 韓国語の二重使役構文の意味的マップ

5. おわりに

本研究では、韓国語の二重使役構文について、コーパス調査を行い、その統語的・意味的特徴について考察してきた。

今後は、系統的・地理的關係や類型論的特徴の異なる言語の二重使役構文について調査し、対照的に研究することで二重使役構文に関する類型論的考察を深めて行きたいと考えている。

謝辞

本研究は、東北大学 21 世紀 COE プログラム (人文科学)「言語・認知総合科学戦略研究教育拠点」の補助を一部受けて行われています。

参考文献

- 菅野裕臣 (1982) 「ヴォイス-朝鮮語-」『講座日本語学』10号, 280-291. 明治書院.
 鷲尾龍一 (2000) 「韓国語接辞使役の構造」『筑波大学「東西言語文化の類型論特別プロジェクト」研究報告書 11 年度』, 637-653. 筑波大学東西文化の類型論特別プロジェクト研究組織.

Comrie, Bernard. (1989) *Language Universals and Linguistic Typology*. Chicago: The University of Chicago Press. 2nd Edition.

Shibatani, Masayoshi. (1976) “The grammar of causative constructions: A conspectus.” In M. Shibatani (Ed.), *Syntax and Semantics* 6. 1-40. New York: Academic Press.

Shibatani, Masayoshi and Chung Sung-Yeo. (2001) “Japanese and Korean causatives revisited.” 『神戸言語学論叢』 3. 112-134.

Shibatani, Masayoshi and Prashant Pardeshi. (2002) “The causative continuum.” In M. Shibatani (Ed.), *The Grammar of Causation and Interpersonal Manipulation*. 85-126. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.

Sohn, Ho-Min. (1999) *The Korean Language*. Cambridge: Cambridge University Press.

Song, Jae-Jung. (2002) “The *-key ha-* causative construction in Korean -Causative or not? : A crosslinguistic perspective” *Enehak* 32. 121-146. ソウル: 韓国言語学会

Yeon, Jae-Hoon. (2003) *Korean Grammatical Constructions*. London: Saffron Books.